

津山工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	電子工学
科目基礎情報				
科目番号	0114	科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	総合理工学科(情報システム系)	対象学年	4	
開設期	後期	週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 小林, 金子, 加藤「基礎半導体工学」(コロナ社) 適宜プリントも配布する。参考書: 伊藤, 原田「これからスタート! 電気電子材料」(電気書院) 伊藤, 植月他「これからスタート! 光エレクトロニクス」(電気書院)			
担当教員	香取 重尊			
到達目標				
学習目的: 物質の構造と半導体の基礎物性を理解し, LEDや太陽電池などの身近に存在している半導体デバイスの動作メカニズムを理解する。 到達目標: 1. 半導体中の電子等の振る舞いについて, エネルギー準位図を用いて説明できる。 2. 基本的な半導体の物性について説明できる。 3. MOSトランジスタの動作原理について説明できる。 4. 光半導体素子である発光ダイオード(LED), 半導体レーザーについて説明できる。 5. 太陽電池・フォトダイオードの動作原理について説明できる。				
ルーブリック				
	優	良	可	不可
評価項目1	pn接合について, フェルミ準位, 価電子帯, 伝道帯, ドナー・アクセプタ準位の関係をエネルギー帯図を用いて説明できる。	pn接合について, フェルミ準位, 価電子帯, 伝道帯, ドナー・アクセプタ準位の関係を理解している。	参考書のpn接合のエネルギー準位図を利用して, pn接合, フェルミ準位, 価電子帯, 伝道帯, ドナー, アクセプタについて定性的に説明できる。	pn接合について, エネルギー対図を用いて説明することができない。
評価項目2	仕事関数, ショットキー障壁, オーム接触についてエネルギー帯図を用いて説明できる。	仕事関数, ショットキー障壁, オーム接触のエネルギー帯図を描くことができる。	参考書中の図面を利用して, 仕事関数, ショットキー障壁, オーム接触を定性的に説明できる。	仕事関数, ショットキー障壁, オーム接触のエネルギー帯図を描くことができない。
評価項目4	MOS型トランジスタの動作原理を, 断面図を用いて説明できる。	MOS型トランジスタの動作原理を理解している。	参考書中のMOS型トランジスタの図面を利用して, その動作原理を説明できる。	MOS型トランジスタの動作原理を説明できない。
評価項目5	発光ダイオード・半導体レーザーの動作原理を図を用いて説明でき, ダブルヘテロ接合「量子井戸接合」について説明できる。	発光ダイオード・半導体レーザーの動作原理を図を用いて説明できる。	参考書中の発光ダイオードや半導体レーザーの構造図面を利用して, 動作原理を説明できる。	発光ダイオード・半導体レーザーの動作原理を説明できない。
評価項目6	太陽電池・フォトダイオードの動作原理を図を用いて説明できる。	太陽電池・フォトダイオードの動作原理を理解している。	参考書中の太陽電池やフォトダイオードの構造図面を利用して, その動作原理を説明できる。	太陽電池・フォトダイオードの動作原理を説明できない。
学科の到達目標項目との関係				
教育方法等				
概要	一般・専門の別・学習の分野: 専門: 電気・電子 基礎となる学問分野: 工学/電気電子工学/電子デバイス・電子機器 学習教育目標との関連: 本科目は総合理工学科の学習教育目標「③基盤となる専門性の深化」のための科目である。 授業の概要: この授業では, 半導体の電子の振る舞いに関係した物性論的な科目である。この講義では, 半導体中の電子や正孔の振る舞いをエネルギーに着目して説明し, さらに半導体素子であるダイオードやトランジスタなどの動作原理の基礎を学習する。			
授業の進め方・方法	授業の方法: 板書を中心に進めていく。図示によって具体的に解説を行う。適宜演習を行い, 内容理解度をチェックしながら進めていく。 成績評価方法: 2回の定期試験の結果をそれぞれ同等に評価する(70%)。小テストの成績, レポートの成績, 演習で評価する(30%)。試験には教科書・ノートの持込みを許可しない。成績不振者には再試験を実施することがある。再試験を行う場合は再試験結果を上限60点として定期試験結果に入れる。			
注意点	履修上の注意: 本科目を選択した者は, 学年の課程修了のために履修(欠課時間数が所定授業時間数の3分の1以下)が必須である。また, 本科目は「授業時間外の学修を必要とする科目」である。当該授業時間と授業時間外の学修を合わせて, 1単位あたり45時間の学修が必要である。授業時間外の学修については, 担当教員の指示に従うこと。教科書に記載していない事項も含まれるので, 参考書も合わせて学習するとより理解が深まる。 履修のアドバイス: トランジスタやLED, 太陽電池など半導体デバイスの動作原理を理解するための基礎となる重要な科目である。聞きなれない専門用語や新しい考え方を学ぶが, 分からないところは積極的に質問すること。 基礎科目: 電気電子基礎I, II (1,2年), 電子回路I (3年), 物理I, II (1, 2), 化学I, II (2, 3) 関連科目: 電気電子材料 (5), 電子回路II (4), 電子デバイス (専2), 応用物理I, II (4,5), 量子科学 (5) 受講上のアドバイス: 初めて聞く言葉や概念が多いので, わからないところはそのままにしないで教員の部屋まで積極的に聞きに来ること。電気電子システム系では電子工学を理解するのに必要な基礎知識を修得することも必要である。復習を十分すること。レポートは遅延なく欠かさず提出すること。授業の各単位時間の開始時に出欠をとり, その際返事がなくその後入室してきた者は遅刻とする。遅刻3回で1回の欠席とする。授業開始時から25分以上遅れたものは1欠課とみなす。			
授業の属性・履修上の区分				
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング	<input type="checkbox"/> ICT 利用	<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
履修選択				
授業計画				

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	本年度は開講しない	
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	30	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0